

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

| | | | | | |
|--|--|-----------------------------|--|-------|--------|
| 事業名 | 連続立体交差事業 <small>きんきにほんてつどうならせん</small> 近畿日本鉄道奈良線 <small>わかえいわたえき ひがしはなのえきふきん</small> (若江岩田駅～東花園駅付近) | 事業区分 | 連続立体交差 | 事業主体 | 大阪府 |
| 起終点 | 自：大阪府東大阪市西岩田 至：大阪府東大阪市桜町 | | | 延長 | 3.3km |
| 事業概要 | | | | | |
| 近鉄奈良線の若江岩田駅～東花園駅付近約3.3kmにおいて鉄道を高架化することにより、9箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業。 | | | | | |
| 平成4年度事業化 | 平成4年度都市計画決定 | 平成5年度用地着手 | 平成14年度鉄道工事着手 | | |
| 全体事業費 | 約713億円 | 事業進捗率 | 約98% | 供用済延長 | 3.3 km |
| 計画交通量 | 221,816台時/日（踏切交通遮断量） | | | | |
| 費用対効果 | B/C | 総費用 | 総便益 | 基準年 | |
| | (事業全体) 1.2 | (残事業)/(事業全体) 7/1165億円 | (残事業)/(事業全体) 842/1349億円 | 令和5年 | |
| | (残事業) 122.3 | 事業費：6/1164億円 維持管理費：1/1億円 | 走行時間短縮便益：790/1263億円 走行経費減少便益：46/76億円 交通事故減少便益：6/10億円 | | |
| 感度分析の結果 | | | | | |
| (事業全体) 交通量：B/C=1.0～1.3（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=110.0～134.5（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%） 事業費：B/C=111.2～135.9（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.2（事業期間±20%） 事業期間：B/C=122.3～122.3（事業期間±20%） | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・踏切除却により踏切事故が解消される。 ・踏切除却及び渋滞緩和により緊急車両の通行が容易になる。 ・駅及びその周辺施設の整備にあわせバリアフリー化が促進されるなど。 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| 早期の事業完成を望んでいる。 | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | | | | | |
| 継続について妥当である。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 | | | | | |
| 周辺環境等に特に変化はない。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| 用地取得率約98%、事業進捗率約98% 平成26年に鉄道高架が完成。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| 工事進捗率は97%となっており、平成22年5月に下り線、平成26年9月に上り線の高架切替が完了し、事業区間内の全ての踏切を除却済み。 主な残事業は、堤防復旧や用地買収が難航している一部の側道整備である。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| 今後も工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 | | | | |

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。